

Gas exchange: CO₂ emissions 1990-2006

首位交代: 1990～2006年のCO₂排出量

Nature Vol.447(1038)/28 June 2007

オランダ環境アセスメント局が6月下旬に出した予備報告によると、中国は化石燃料の燃焼とセメントの製造のため、米国を抜いて世界一の二酸化炭素排出国となった（現在、世界の新しいセメントの44パーセントは中国で製造されている）。そこで、CO₂排出量が世界最大級の国々、

もしくは経済圏の比較を見てみよう。

国民1人当たりで見れば、米国はいまだに炭素を最も浪費する経済圏として他を大きく引き離しており、歴史的にみて大気中へのCO₂蓄積に対し圧倒的に最大の関与をしてきた。国内総生産（GDP）に対するCO₂排出量、つまり炭素集約

度（carbon intensity）の点からみると、中国が最悪となる。1990年以降、炭素集約度は4つの経済圏すべてで低下しており、中国での低下ぶりが最も顕著である。しかし、経済成長率に対する世界のCO₂総排出量は1990～2006年の間に35パーセント以上も上昇した。 ■

